

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02259

研究課題名(和文)感情の媒介的機能に定位した、よき共同的な生の構想

研究課題名(英文)Concepts of Communal Life Based on the Mediating Function of Emotions

研究代表者

野家 啓一(Noe, Keiichi)

東北大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：40103220

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、感情の媒介的機能を解明し、その機能に基づいて、よき人間的な生を支える共同性のあり方を明らかにすることである。そのために本研究は、学際的なアプローチを採用し、哲学・倫理学・心理学など、研究分担者のさまざまな学問的な資源を活用して、感情と共同性をめぐる多角的な検討を試みた。特色的な成果としては、共同性の感情的な基礎をめぐる哲学・倫理学的な考察においては、道元、西田、三木、田辺などの日本哲学へ遡及したことがある。また、嫉妬や正義感などの共同的な感情をめぐる心理学調査が展開され、それを踏まえて哲学と心理学との学際的な共同が成果として結実した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

よりよい人間的な共同性を構築し、そのなかで幸福な生を営むには、どのような感情とその媒介的機能が必要だろうか。本研究は、公共心、正義感、帰属感など、さまざまな共同体的な感情について、心理学的に実験・調査し、哲学・倫理学的に考察したものである。

日本と欧米との比較思想的な研究成果、および哲学・倫理学と心理学との学際的な成果には、オリジナルな高い学術的意義がある。また本研究の社会的意義としては、現代日本社会に見られる排斥や敵対の感情の成り立ちや対処法について、多角的に考察し、提言したことが挙げられよう。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to elucidate the mediating function of emotions and to clarify the nature of human community that could support good human life based on that function. In order to achieve this goal, our study adopted an interdisciplinary approach and attempted multifaceted investigations of emotions and community, by effectively utilizing the various academic resources of research participants, including philosophy, ethics, and psychology.

One of the most notable results is the examinations of the philosophical aspects of the emotional basis of community, which led us back to the Japanese philosophers such as Dogen, Nishida, Miki, Tanabe. Our project includes experimental psychological research on the communal emotions (ex. jealousy and a sense of justice), which resulted in an interdisciplinary collaboration between philosophy and psychology.

研究分野：哲学

キーワード：感情 共同性 哲学 倫理学 心理学 日本哲学

1. 研究開始当初の背景

人はさまざまな共同体を形成し、そこに所属して活動することにより、他者からの承認を得て、生きる意味を実感しうる。社会とはこれらの共同体が有機的に統合されたものであるが、人はそれぞれ共同体における活動を通じて社会に寄与している。

しかし、このような人と共同体・社会との望ましい関係を実現することは、現代社会では困難になりつつある。現代では、個人の活動が消費へと強く動機づけられ、生活の個人化が進んでいる。さらに世代間、地域、所得、情報など、さまざまな次元での格差により、横断的な共同体が形成されにくい。

また、共同体の内部では強い同調圧力がかかる一方、共同体相互の分断や対立、攻撃や排除が目立つようになってきた。東日本大震災とその復興の過程においても、そのことは鮮明になった。

関係や包摂より対立や排除が優勢になりつつある現代社会において、人が共同体と社会のなかでどのように生きることが望ましく、よき生に繋がるのかを解明し、共同的なよき生を実現する方途を描きだすことが重要な課題になった。

2. 研究の目的

個人と共同体との関わりを捉えるための必須の観点の一つが「感情」である。

共同体において、人々の相互信頼や相互承認、集団への共属感、感情として共有・表現される。さらには、共同体間でも同様に相互承認や同志意識の感情が媒介となる。感情は、顔面表情や身体所作、声色として表現され、それが他者により知覚され、伝播的に共有されることで、諸個人を媒介する機能を果たす。感情を介した心的状態の共有は、共同体が成立する原初的な心理的基盤であり、さらには共同体どうしの関係を定める要因になる。

共同体あるいは社会の形成をめぐる研究としては、すでに科研費研究「科学技術における討議倫理のモデル構築」において、語りと対話からなる共同体の物語り論の論理を解明したところだが、本研究はそれを踏まえて、その論理に人間的な感情の次元が組み合わさることで、共同体的な「生」の基盤が形成される場面に迫ることを課題とした。

こうした共同体と感情の問題は、今日のグローバル化した世界では、日本に局限して考察することはできず、国際的な比較と検討が必要である。日本では「恥」の感覚や「空気」のような同調圧力が独特の役割を果たすことは、よく知られる。京都学派をはじめとする近代以降の日本の哲学において、感情と共同体をめぐる問題圏についてどのように考えられてきたかを解明し、西洋思想との差異を測定することが必須の課題である。

また、心理学的なアプローチによって、現代日本における感情とその共同性を考察し、これをおもに近現代ヨーロッパの場合と対照させることで、現代の日本人の生の特異性と普遍性を明らかにすることも重要である。

本研究の目的は、感情の媒介的機能を解明し、その機能に基づいて、よき人間的な生を支える共同性のあり方を明らかにすることである。そのために本研究は、学際的なアプローチを採用し、さまざまな学問的リソースを活用し、感情と共同性をめぐる多角的な検討を試みた。

本研究では、感情や社会秩序に関する哲学・倫理的な原理論的研究を基礎として、共同

的な感情をめぐるアンケート式の心理学調査をも活用し、さらに日欧の比較社会的な研究にも踏み込み、それらを統合したうえで、共同体におけるよき生の構想を、現代の日本に対して提言するものである。

3．研究の方法

本研究は学際的・総合的なアプローチをとり、(A)感情概念研究班、(B)共同性研究班、(C)国際比較研究班三つの班からなる総合的な研究を計画した。各班の役割は以下のとおり。

(A)感情の本性に関する研究では、哲学研究者と心理学者が連携し、哲学史や心理学史上に登場する感情理論の精査に基づいて、心の機構において感情が果たす役割を解明し、感情とは何かを規定する。

(B)よき生を実現する共同体についての研究では、哲学・倫理学研究者と心理学者が連携し、社会的関係の基盤となる心的状態としての感情に焦点を当てることで、共同体における人のよき生のあり方を明らかにする。

(C)国際比較研究においては、共同体の形成に果たす感情の役割について、日本に固有の事情を思想的に析出することを試みる。これはAとBの観点から得られた成果を、国際的な比較思想研究の観点から検証することでもある。

4．研究成果

各年度の成果をあげるなら、2017年度は、東北哲学会にて「感情と認識：20世紀前半のフランス哲学の観点から」と題するシンポジウムを企画し、また研究会として「**Social Forms of Self-Conscious Emotions**」、「トマス・アクィナスの感情論」、「裁判員裁判と感情：社会学・社会心理学・哲学からの検討」などを主催・後援した。ユトレヒト大学における研究会「**Feelings and Emotions in Philosophy**」において研究分担者3名が発表した。

2018年度は、東北哲学会でのシンポジウム「日本哲学における感情と思考」において3名の研究代表・分担者が登壇し、「翻訳における西田幾多郎の感情と思考」、「田辺元に探る感情の問題 — 芸術と理性の内的葛藤」、「三木清におけるロゴスとパトス」という三つの観点から、日本哲学における感情の問題圏を検討した。「**Envy and Us**」や「**Workshop: Philosophy of Death and Meaning**」などを主催し、国際共同研究も積極的に進められた。日本心理学会でのシンポジウム「感情をめぐる二つのアプローチ：哲学と心理学」に研究分担者が登壇した。

2019年度は、国際研究会「**Dogen's Philosophy: From Western and Japanese Perspectives**」及び「**Philosophy of Emotion and Community**」を主催し、研究分担者が多く発表する機会を得た。日本心理学会での公募シンポジウム「正義をめぐる二つのアプローチ：哲学と心理学(2)」に5名の分担者が登壇し、代表の野家は **IAJP 2019 Conference** で三木清について講演した。

繰越の2020年度には、コロナ禍のなか、日本心理学会において「コロナ問題をめぐる二つのアプローチ：哲学と心理学(3)」に招待された。その成果もふまえ、7名の研究代表・分担者が寄稿して、雑誌『エモーション・スタディーズ』に特集号「共同と感情の哲学」を組んで刊行した(https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ems/6/Si/_contents/-char/ja)。この特集は、「合理性」、「共通感覚」、「愛」、「公共性」などの諸観点から、共同性と感情について哲学的・心理学的な検討を加えたものである。また、代表の野家は、三木清の社会科学論について講演した。

総じて言えば、本研究は、国際的な比較研究を踏まえつつ、人間の「感情」という側面から、

人間的共同体の成り立ちに迫る哲学的・心理学的研究として、多面的な知見を切りひらいたものと評価しうる。

特筆すべき成果の一つとしては、哲学と心理学との共同研究があげられる。日本心理学会において「感情」「正義」「コロナ問題」という観点から、3度のシンポジウムが開かれた。そこでは、人間的共同性を促進・阻害する感情の諸相について検討が加えられ、現代日本社会の抱える諸問題が感情という観点から解明された。

また、数多くの国際研究会を開き、内外の研究者との交流をもったことも挙げられる。そのなかでは、とりわけ日本と欧米との比較思想的検討を多角的に試み、今後の日本社会における公共性のあり方を構想するうえでの豊かな思想的洞察を得た。また、日本哲学の研究に注力したことにも触れておきたい。道元、西田幾多郎、田辺元、三木清などの日本の思想家の感情論・共同体論の検討を積極的に進めたが、これは今後のわが国の感情と共同性をめぐる哲学研究のための基盤となるものと期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 35
2. 論文標題 三木清におけるロゴスとパトス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北哲学会年報	6. 最初と最後の頁 35～49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 24
2. 論文標題 科学思想から見た<農>の倫理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業普及研究	6. 最初と最後の頁 2～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 41
2. 論文標題 自然哲学と自然史のあいだ ゲーテ自然学の射程	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モルフォロギア	6. 最初と最後の頁 2～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 特別号
2. 論文標題 『理学』と『科学』のあいだ 東アジア科学思想の解釈学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 73～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 47
2. 論文標題 リスク社会における科学技術倫理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界思想	6. 最初と最後の頁 2~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 30 (5)
2. 論文標題 額に汗して考え抜く 二元論的思考を根底から覆す『ことだま論』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 総合診療	6. 最初と最後の頁 556~559
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家 啓一	4. 巻 6
2. 論文標題 哲学からのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 42~47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_42	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uehara Mayuko	4. 巻 8
2. 論文標題 Nishida Kitaro as Buddhist Philosopher: Self-Cultivation, a Theory of the Body, and the Religious Worldview	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Kopf G. (eds) The Dao Companion to Japanese Buddhist Philosophy. Dao Companions to Chinese Philosophy, vol 8. Springer, Dordrecht	6. 最初と最後の頁 575~588
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-90-481-2924-9_25	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 村山 達也	4. 巻 6
2. 論文標題 「好きな人の特別な存在になる」ことの特別さ??相互的な愛の価値について??	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 22～30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部 恒之	4. 巻 6
2. 論文標題 特集「共同と感情の哲学」巻頭言	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 1～3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荻原 理	4. 巻 6
2. 論文標題 共同と感情 西洋哲学のある傾向に逆らって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 4～12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 城戸 淳	4. 巻 6
2. 論文標題 カントの共通感覚論 共同性の感情的基礎のために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 13～21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山 達也	4. 巻 6
2. 論文標題 「好きな人の特別な存在になる」ことの特別さ??相互的な愛の価値について??	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 22～30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部 恒之、北村 英哉、原 壱	4. 巻 6
2. 論文標題 コロナ問題をめぐる哲学と心理学の対話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 31～41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂井 信之	4. 巻 6
2. 論文標題 心理学からのコメント 「好き」の心理学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 48～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_48	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Abe, Tsuneyuki; Raevskiy, Alexander E.	4. 巻 13(3)
2. 論文標題 : ; ; (COVID-19 masks and “jishuku” (self-restriction).)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal) (National Psychological	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11621/npj.2020.0302	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第39巻2号
2. 論文標題 科学哲学から見た精神病理学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『臨床精神病理』	6. 最初と最後の頁 125-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第1139号
2. 論文標題 <ポスト真実>時代の知と公共圏	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 68-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Enrico Fongaro	4. 巻 9
2. 論文標題 Corporeita e desoggettivazione nell'estetica interculturale di Kitaro Nishida	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scenari	6. 最初と最後の頁 201 - 222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Enrico Fongaro	4. 巻 3 (1)
2. 論文標題 Can Westerners Understand the Arts of Other Cultures and What Might They Learn by Doing So? A Long-Distance Dialogue	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of World Philosophies	6. 最初と最後の頁 93 - 122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻原理	4. 巻 51
2. 論文標題 浮気されれば気付かなくてもその分不幸になるか という問いをきめこまかくする	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思索	6. 最初と最後の頁 33-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 城戸淳	4. 巻 第1135号
2. 論文標題 無限と性格 カントの遺稿の自由論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『思想』(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 29~42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Kido,	4. 巻 4
2. 論文標題 Kant 's Synthetic Unity of Apperception and Its Rivals	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Natur und Freiheit. Akten des XII. Internationalen Kant-Kongresses	6. 最初と最後の頁 3197-3204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Onuma Takuya, Sakai Nobuyuki	4. 巻 60
2. 論文標題 Fabric Softener Fragrances Modulate the Impression Toward Female Faces and Frontal Brain Activity	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 276~287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpr.12203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂井信之・ベンナンワクル ユワディー・大沼卓也	4. 巻 31
2. 論文標題 ブランド認知が美味しさ評定に及ぼす効果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 睡眠と科学	6. 最初と最後の頁 34-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原麻有子	4. 巻 14
2. 論文標題 「名」と「実存」 九鬼周造の哲学を巡る一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本哲学史研究』	6. 最初と最後の頁 123-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山達也	4. 巻 68
2. 論文標題 自足した愛の曖昧な対象：ベルクソンの道徳論における	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『東北哲学会年報』	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻原理	4. 巻 XLIX
2. 論文標題 プラトン『法律』における説得	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『メトドス』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 直江清隆	4. 巻 50
2. 論文標題 人工物と集合的暗黙知	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『思索』	6. 最初と最後の頁 31-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 92
2. 論文標題 専門家支配から非専門家統制へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『クライテリオン』	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 53
2. 論文標題 東北大学と科学哲学の伝統	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『思索』	6. 最初と最後の頁 145-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 2
2. 論文標題 『物語の哲学』と西川文学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『西川徹郎研究』第二集	6. 最初と最後の頁 32-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計47件（うち招待講演 23件 / うち国際学会 21件）

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 東北大学と科学哲学の伝統
3. 学会等名 西田幾多郎と東北大学ゆかりの人々（東北大学片平さくらホール）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 3.11以降の科学技術と社会倫理
3. 学会等名 日本科学協会主催セミナー：未来をひらく科学と倫理（日本財団ビル）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiichi NOE
2. 発表標題 The Unification of Logos and Pathos in MIKI Kiyoshi 's Philosophy
3. 学会等名 IAJP 2019 Conference: Kyoto School, Tokyo School and Beyond (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部 恒之, 北村 英哉, 熊谷 智博, 村山 達也, 原 塑, 城戸 淳, 中村 真, 直江 清隆
2. 発表標題 正義をめぐる二つのアプローチ：哲学と心理学（2）
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiara Robbiano + Enrico Fongaro
2. 発表標題 The Origin of the Way: the what, why, and how of Dogen Philosophy
3. 学会等名 Dogen's philosophy --from Western and Japanese Perspectives (第42回 フッセル・アーベント 東北大学) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyotaka Naoe
2. 発表標題 Emotion and Collective Action
3. 学会等名 International Philosophical Workshop "Philosophy of Emotion and Community" 3rd November, 2019, Tohoku University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Saku Hara
2. 発表標題 Disgust, Shame, and Dignity
3. 学会等名 International Philosophical Workshop "Philosophy of Emotion and Community" 3rd November, 2019, Tohoku University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 三木清におけるロゴスとパトス
3. 学会等名 東北哲学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiichi NOE
2. 発表標題 Fudo (風土) and Utamakura (歌枕): Pilgrimage as resistance to oblivion
3. 学会等名 The 24th. World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiichi NOE
2. 発表標題 "Between 'Rigaku' and 'Kagaku': Hermeneutics of East Asian Scientific Thought", October 5, 2018.
3. 学会等名 International Conference at Chubu University: Seeking for a New Conception of Science - The Future of Scientific Culture in East Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 田辺元に探る感情の問題 芸術と理性の内的葛藤
3. 学会等名 第68 回大会東北哲学会、シンポジウム「日本哲学における感情と思考」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 実存の性差を問う 絶対的他性、対等、尊厳の現代的問題(日本語)
3. 学会等名 4th Meeting of the European Network of Japanese Philosophy, "Crossing the Boundaries in Japanese Philosophy", University of Hildesheim (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 創造する翻訳 近代日本哲学の成長をたどって
3. 学会等名 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏 東アジアの人文学の危機と再生」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 “ Expressive No; Theater Mask Inquiring into Artistic Expression through Nishida Kitaro ’s Philosophy of Action ”, Panel “ Power and Creativity in Modern East Asian Philosophy ”
3. 学会等名 50th Society for Asian and Comparative Philosophy Conference, Jagiellonian University Krakow, Poland (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 “ Inquiring into Gender Difference in the Self-Other Relation within Nishida ’s Inter-Subjective Philosophy ”, Panel “ Philosophizing Gender: Women and Patriarchy in Asian Society and History ”, The Asian Association of Women Philosophers (AAWP)
3. 学会等名 24th World Congress of Philosophy (WCP) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 “ Translation as Monologue In light of the “ Call ” between “ I and You ” within Nishida Philosophy ”, Panel “ Philosophy of Translation in East Asian Context ”
3. 学会等名 International Association of Japanese Philosophy (IAJP), within the 24th World Congress of Philosophy (WCP) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 フォンガロ・エンリコ
2. 発表標題 翻訳における西田幾多郎の「感情」と「思考」2018年10月27日 東北哲学会
3. 学会等名 第68回東北哲学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Enrico Fongaro
2. 発表標題 Fading "Furusato": On the Obsession with Origin
3. 学会等名 Furusato: 'Home' at the Nexus of Politics, History, Art, Society, and Self (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi Ogihara
2. 発表標題 Education-related compulsion in Plato's REPUBLIC
3. 学会等名 World Congress of Philosophy, 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部 恒之(司会), 原 壘(討論), 直江清隆(司会)
2. 発表標題 感情をめぐる二つのアプローチ: 哲学と心理学
3. 学会等名 日本心理学会企画シンポジウム(招待)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部 恒之ほか
2. 発表標題 (ポスター) 公正世界信念が有名人のゴシップ評価に及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会大82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部恒之ほか
2. 発表標題 有名人のゴシップに対する社会的評価
3. 学会等名 日本心理学会大82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原 壘
2. 発表標題 東日本大震災直後の科学者と市民の対立 - - ブライアン・ウインのカテゴリー的分離をめぐって
3. 学会等名 科学技術社会論学会第17回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原 壘
2. 発表標題 感情と科学的合理性
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原 壘
2. 発表標題 動物研究から個性を理解する
3. 学会等名 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 城戸 淳
2. 発表標題 ニーチェとルサンチマンの問題 道徳、自己欺瞞、偽善
3. 学会等名 ワークショップ「Nietzsche's Thought and Reception in Europe and Japan / ヨーロッパと日本におけるニーチェの思想と受容」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂井 信之
2. 発表標題 21世紀の生活に向けた心理学
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 直江 清隆
2. 発表標題 人工知能の導入と人間関係 医療における意思決定を例にした試論
3. 学会等名 応用哲学会第10回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 直江清隆
2. 発表標題 科学・技術とwell-being社会
3. 学会等名 第19回クワトロセミナー 東北大学（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 特別講演「科学哲学から見た精神病理学」
3. 学会等名 第40回日本精神病理学会大会（仙台国際センター）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 シンポジウム提題講演「自己のゆらぎ：人称の迷路のなかで」
3. 学会等名 第17回河合臨床哲学シンポジウム（東京大学弥生講堂一条ホール）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Uehara Mayuko
2. 発表標題 Takahashi Fumi; The Secret History of a Woman Philosopher 's Self-Awareness
3. 学会等名 The 1st. Conference of Asian Association of Women Philosophers, Ewha Woman 's University, 2017 Augst 6th-8th. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部恒之
2. 発表標題 笑いの力
3. 学会等名 日本映像学会, 映像心理学研究会・アニメーション研究会合同研究発表会 『笑いの力』 日本大学文理学部百周年記念館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsuneyuki ABE
2. 発表標題 Shifts in Norms: The Manners of Survivors after the 2011 Disaster
3. 学会等名 3.11: Disaster and Trauma in Experience, Understanding, and Imagination ヘント大学(ベルギー)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyotaka NAOE
2. 発表標題 Expression and Feeling in early Phenomenology and Psychology
3. 学会等名 Workshop: Feelings and emotions in philosophy, Utrecht University(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyotaka NAOE
2. 発表標題 Tacit Knowledge and Artefacts
3. 学会等名 Human-technology colloquium, Twente University(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Enrico FONGARO
2. 発表標題 Feeling and Thinking in Nishida
3. 学会等名 Feelings and Emotions in Philosophy コトレヒト大学(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山達也
2. 発表標題 自足した愛とその曖昧な対象：ベルクソンの道徳論における
3. 学会等名 東北哲学会・第六七回大会・2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoshi OGIHARA
2. 発表標題 Education-related compulsion in Plato's Republic、
3. 学会等名 Symposium on Plato, Tohoku University, Jan. 29, 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saku HARA
2. 発表標題 The significance of Bildung in a period of university reform
3. 学会等名 Workshop: Feelings and emotions in philosophy, University Utrecht, Utrecht, March 18, 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saku HARA
2. 発表標題 Techno-scientific Risk and Emotion -- Conflict between Scientists and Citizens after the Great East Japan Earthquake Disaster
3. 学会等名 3.11: Disaster and Trauma in Experience, Understanding, and Imagination ヘント大学(ベルギー)(国際学会)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部恒之ほか
2. 発表標題 2つの正義観による事件の分類
3. 学会等名 日本心理学会(ポスター)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部恒之、北村英哉、原壘
2. 発表標題 コロナ問題をめぐる二つのアプローチ: 哲学と心理学(3)
3. 学会等名 日本心理学会 大会招待シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部恒之ほか
2. 発表標題 道徳判断が迷惑行為へのクレームに及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会(ポスター)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiichi NOE
2. 発表標題 “ Keynote Address: MIKI Kiyoshi and the Philosophy of Social Sciences ”
3. 学会等名 ANPOSS/ENPOSS/POSS-RT 2021 Joint Conference, Hitotsubashi University (Online), March 4, 2021. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 「基調講演：コロナ時代における〈生政治〉の行方」
3. 学会等名 東京大学東アジア芸文書院オンラインワークショップ「感染症 歴史と物語のはざままで」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野家啓一・川本隆史
2. 発表標題 公開対談：10年目の〈物語り〉と〈ケア〉
3. 学会等名 香港公開大学市民向け公開シンポジウム(オンライン)「大震災と復興の行方」2021年3月6日(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 山中由里子・山田仁史編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 この世のキワ(このうち、野家啓一「怪物の形而上学」pp.69~79)	

1. 著者名 野家啓一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河合出版	5. 総ページ数 101
3. 書名 3・11以後の科学・技術・社会	

1. 著者名 東北大学教養教育院	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 248
3. 書名 人文学の要諦（このうち、野家啓一「人文知と科学知のはざま」pp.1～17）	

1. 著者名 木村敏・野家啓一（監修）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河合文化教育研究所	5. 総ページ数 284
3. 書名 人称をめぐる 臨床哲学の諸相（このうち、野家啓一「非人称（エス）の迷路のなかで」pp.205～226）	

1. 著者名 甚野尚志、河野貴美子、陣野英則編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 近代人文学はいかに形成されたか（このうち、上原麻有子「創造する翻訳 近代日本哲学の成長をたどって」157～176頁）	

1. 著者名 John W. M. Krummel (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Rowman & Littlefield	5. 総ページ数 ===
3. 書名 Contemporary Japanese Philosophy : A Reader (Uehara Mayuko, "Trends and Prospects in Japanese Philosophy After 1945: The Contemporary Philosophy of Hiromatsu Wataru --from Marxist Philosophy to the Theory of Facial Expression", pp. 249-274)	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界哲学史 8 (このうち、上原麻有子「日本哲学の連続性」209～228頁)	

1. 著者名 ed. Leon Kings/Francesca Greco/Yukiko Kuwayam	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Chisokudo Publications	5. 総ページ数 ===
3. 書名 Transitions- Crossing Boudaries in Japanese Philosophy (上原麻有子「高橋、西田、ボーヴォワール、レヴィナスにおける性差ある他者性を問う」32～51頁)	

1. 著者名 東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 212
3. 書名 未来への遺産 (このうち、城戸淳「カントの平和の歴史哲学」(83～122頁))	

1. 著者名 野家啓一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 335
3. 書名 『はざまの哲学』	

1. 著者名 荻原理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 232 + xii
3. 書名 マクダウェルの倫理学 『徳と理性』を読む	

1. 著者名 鈴木岩弓・小林隆（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 『柳田國男と東北大学』（野家啓一「現代を生きる柳田國男」pp.3-28）	

1. 著者名 木村敏・野家啓一（監修）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 、河合文化教育研究所	5. 総ページ数 284
3. 書名 『人称をめくって 臨床哲学の諸相』（野家啓一「非人称（エス）の迷路のなかで」pp.205-226.）	

1. 著者名 Fongaro et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Mimesis International	5. 総ページ数 184
3. 書名 3.11 Disaster and Trauma in Experience, Understanding, and Imagination (Enrico Fongaro, Forget the Unforgettable or Recall the Unrecollectable? How to Commemorate Fukushima's Nuclear Disaster (If Time has Gone out of Joint)))	

1. 著者名 Michiko YUSA (ed.) / 遊佐道子編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Bloomsbury Academic	5. 総ページ数 416
3. 書名 The Bloomsbury research handbook of contemporary Japanese philosophy, including Keiichi NOE, "Nishida Kitaro as a Philosopher of Science (enlarged version)", in pp.285-305.	

1. 著者名 鈴木岩弓・小林 隆 (編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 『柳田國男と東北大学』(野家啓一「現代を生きる柳田國男」pp.3-28.)	

1. 著者名 ヘンリー・E・アリソン著、城戸淳訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 590
3. 書名 『カントの自由論』	

1. 著者名 山脇直司編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 『教養教育と統合知』（野家啓一「<教養>のための弁明」pp. 3-18）（直江清隆「教養教育と市民形成」pp. 39-50）	

1. 著者名 野家 啓一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河合出版	5. 総ページ数 101
3. 書名 3・11以後の科学・技術・社会	

1. 著者名 日本科学協会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 336
3. 書名 科学と倫理（このうち、野家啓一「3.11以後の科学と倫理」pp. 15-35.）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

野家啓一「公共性の危機と批判的討議」『公共性と美術館の未来』東北大学日本学国際共同大学院シンポジウム、2020年8月、pp.2-6. https://www.sal.tohoku.ac.jp/media/files/_u/event/file2/pzzmlb0yz.pdf

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荻原 理 (Ogihara Satoshi) (00344630)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	直江 清隆 (Naoe Kiyotaka) (30312169)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	上原 麻有子 (Uehara Mayuko) (40465373)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	村山 達也 (Murayama Tatsuya) (50596161)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	阿部 恒之 (Abe Tsuneyuki) (60419223)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	原 塑 (Hara Saku) (70463891)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	城戸 淳 (Kido Atsushi) (90323948)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	坂井 信之 (Sakai Nobuyuki) (90369728)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	FONGARO ENRICO (Fongaro Enrico) (90457119)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	二瓶 真理子 (Nihei Mariko) (50770294)	松山大学・経済学部・准教授	
研究協力者	戸島 貴代志 (Toshima Kiyoshi)	東北大学・文学研究科・教授	
研究協力者	パウル ツィヒェ (Ziche Paul)	ユトレヒト大学・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 Dogen's Philosophy: From Western and Japanese Perspectives	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Philosophy of Emotion and Community	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Dogen's philosophy --from Western and Japanese Perspectives (第42回フッセル・アーベント 東北大学)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Philosophical Workshop "Philosophy of Emotion and Community" 3rd November, 2019, Tohoku University	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Workshop: Philosophy of Death and Meaning	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Envy and Us	開催年 2018年～2018年

国際研究集会 Social Forms of Self-Conscious Emotions	開催年 2017年～2017年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	ユトレヒト大学			
米国	Luther College			
ロシア連邦	Moscow State University			
オランダ	Utrecht University			
アイルランド	University College Cork			
英国	Oxford University			
ベルギー	ヘント大学			